

最近話題となっている病害虫

鹿児島県病害虫防除所 中西 善裕

サツマイモ基腐病

学名：*Plenodomus destruens* Harter
(syn. *Phomopsis destruens*)

2018 年 8 月、鹿児島県内のサツマイモつる割病の発生ほ場において、地際部の茎及び塊根首部が黒色～暗褐変する被害を確認した（図 1）。症状は茎の上部及び塊根全体に伸展し（図 2）、乾燥硬化、枯死に至った。

その後の診断により、サツマイモ基腐病（*Plenodomus destruens*）、サツマイモ乾腐病（*Diaporthe batatas*）と同定され、本県は 12 月に両病害に関する病害虫発生予察特殊報を発出した。

基腐病は、国内では 2018 年 11 月に沖縄県で初めて発生が報告され（沖縄県, 2018）、本県での発生確認の後、2019 年 1 月には宮崎県のサツマイモでも発生が認められ、特殊報が発表されている。一方、乾腐病は、既に国内で広く知られており、貯蔵中の塊根における発生が多い病害である。

両病害の症状は類似しており、上記の症状が確認されたほ場では、両病害のいずれかまたは両方が発生している可能性がある。



図 1 サツマイモの株元の黒色～暗褐変



図 2 サツマイモ被害塊根の外観（上）及び縦断面（下）
※いずれも塊根左部分が腐敗部位

■病原菌の特徴

不完全菌類に属する糸状菌。分生子には大きさ、形状が異なる二つの型がある（図 3）。

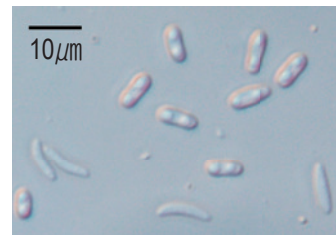


図 3 二つの型の分生子

■宿主植物

ヒルガオ科植物

■伝染方法

基腐病は発病したサツマイモのつるや塊根が伝染源となり広がり、害虫の食害などにより生じた傷で病原菌の侵入が助長される。病原菌は植物残渣上で越冬し、翌年の伝染源となる（Huang, 2012）。

■海外での分布地域

台湾、中国、韓国、タンザニア、南アフリカ、ニュージーランド、米国、キューバ、カリブ諸国、ブラジル、アルゼンチン等。

■防除

基腐病は、つる割病や乾腐病と同様、糸状菌による土壌病害であり、同様の防除対策を実施する。

対象となるサツマイモの生育状況を観察し、葉の変色等生育不良株を中心に、地際部付近の変色の有無を目安に早期発見に努め、発病株の抜き取りなど適切に処分する。排水対策を徹底するとともに、苗消毒や種苗更新による健全種芋及び健全苗の確保と輪作や効果的な土壌消毒による苗床・栽培ほ場の無病化に努める。

侵入経路や発病条件、栽培における伝染環等には不明な点も多いことから、今後の被害拡大を防ぐため、発生生態のさらなる解明、有効薬剤の農薬登録の促進が必要である。

参考文献：

Huang, C. W. (2012) Occurrence of Foot Rot Disease of Sweet Potato Caused by *Phomopsis destruens* in Taiwan. *Plant Pathol. Bull.* 21: 47-52: 298-322.

沖縄県病害虫防除技術センター (2018) 平成 30 年度病害虫発生予察特殊報第 8 号